

和田家：便所

和田家の玄関前にある小屋のような建物は、この家の便所である。白川郷でも合掌造りの大きな家にしか付いていないタイプで、非常に広いのが特徴。建物には 3 つの部屋があり、1 つは馬を飼っていた部屋で、残りの 2 つは和田家が使っていたトイレブースだ。今はその 1 つが物置になっているが、もう 1 つは当時のままの姿で残っている。トイレは大きな木の樽に、立ったり座ったりするための数枚の板を敷いたものである。この家には屋内にも（小）便所があり、そこから床下の穴に尿が導かれていたので、これらの設備は主に糞のためのものだった。床下の穴は、火薬の原料である焰硝（硝酸カリウム）を作るためのもので、藁や土、ヨモギ、蚕の排泄物などが詰められていた。人間の尿は、この混合物の発酵を促進した。